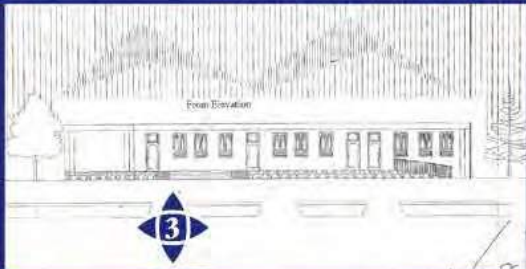
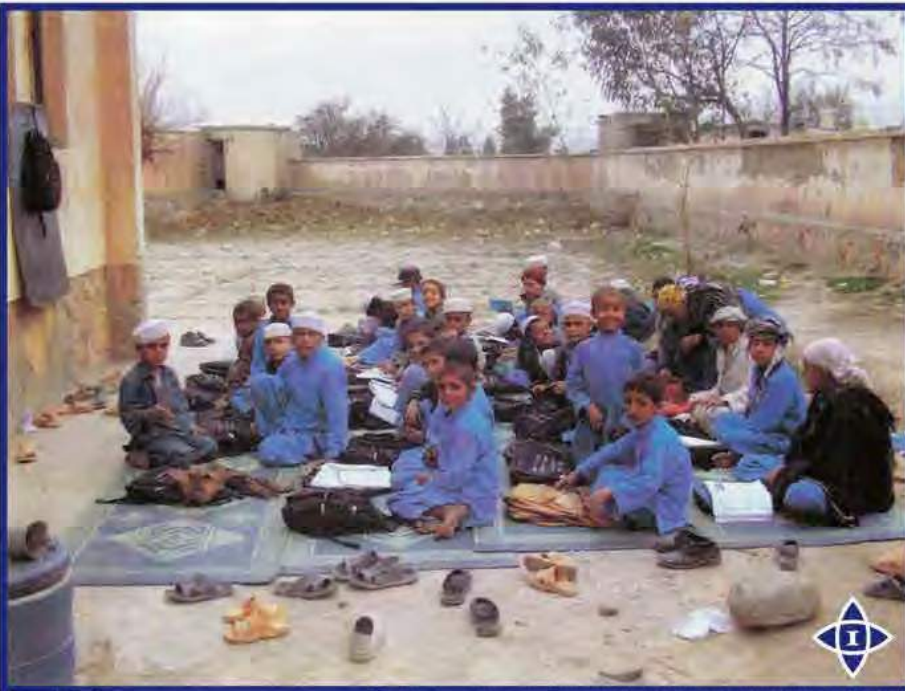


松葉屋通信

matubaya
-tushin
vol.12
2009.11.8

発行所松葉屋家具店
026-232-2346

「アフガニスタン学校建設支援事業に関する覚書」に、正式調印しました。



アフガン学校建設調印
教育委員会の来年1月着工へ

家具店の資金集め 目標額届くまで

アフガンの現状を
長小の児童に紹介

1と2*子どもたちの今の学校生活の様子
3*建設予定の校舎立面図(4教室)
4*目録贈呈式の様子
5*地元新聞の掲載記事

資料提供*SVA

地球のみんながひとつになるプロジェクト
(善光寺・大門町学校) 事務局
滝澤 善五郎
佳子

この春、善光寺御開帳にあわせて始まりました「善光寺・大門町学校」地球のみんながひとつになるプロジェクトでは、たくさんの方のみなさまに、私たちの今回の取り組みに対するご理解や関心を寄せていただきました。おかげさまで目標額にとどく目処がつき、去る10月8日(木曜日)の午後、この事業の実施団体である「シャンティ国際ボランティア会」アフガニスタン事務所の三宅隆史所長と副所長のワヒド・ザマニさんをお迎えしての目録贈呈式を行うことができました。みなさま、本当にありがとうございました。

今回の支援活動の大きな柱は、校舎の建設ですが、その中には、現地での「学校建設委員会」の強化や、学用品・教材など当面の学校教育に必要な「スタートキット」の提供。また、校舎引渡しの際には、「維持管理や運営などに関するワークショップ」を行うことも含まれています。着工は来年1月、早ければ10月末にも開校できるかもしれません。

今後の展開につきましても、またご報告をしていきたいと思います。みなさまには、重ねてお礼を申し上げます。

ワヒド・アマード・ザマニさん (SVAアフガニスタン事務所 副所長)

1976年アフガニスタン・カブール生まれ。幼いころに父親を亡くし、アフガニスタン内戦が激しくなったのを機に、1993年、家族と共に難民としてパキスタンに避難。パキスタン・ペシャワールにて麻薬中毒患者のリハビリテーションを行うNGOでソーシャルワーカーとして活動。2001年～SVAの緊急救援活動に関わり、2003年からコーディネーターに、2007年7月、アフガニスタン事務所副所長に就任しました。

約30年に渡る戦争で私たちは多くのものを失くしました。私たちの子どもは戦争しか知りません。戦争はもういやです。この平和を大切にしたいのです。テロリストと呼ばれたくないのです。今一度、私たちにチャンスを与えてください。自分たち自身で平和な国を維持していくために、あなたたちの力が必要です。私たちに何もありません。しかし、ひとつだけ約束できるのはあなたたちの支援を決して無駄にはしません。SVAアフガニスタン人職員を代表して。副所長、ワヒド・ザマニ

Islamic Republic of Afghanistan

シヤヒドアダムカーン男子小学校(善光寺・大門町学校)建設支援事業



- ☒ 面積 652,225km²
- ☒ 人口 3,000万人
- ☒ 首都 カブール
- ☒ 民族 パシュトゥーン人
タジク人
ハズラ人
ウズベク人他
- ☒ 言語 ダリー語(公用語)
パシュトゥーン語他
- ☒ 宗教 イスラム教
主にスンニー派のハナフィ
学派(ハズラ人はシーア派)



- ☒ 建設予定地
アフガニスタン国ナンガ
ハール州ソクロッド郡ス
ルタンブル村
(ジャララバード西10km)
- ☒ 実施期間
2010年1月~12月
- ☒ 対象者
男子児童200名 教員6名
- ☒ 事業予算
650万円
- ☒ 実施団体および事業責任者
社団法人シャンティ国際
ボランティア会(SVA)
- ☒ 現地協力団体
アフガニスタン国教育省・
情報文化省
ナンガハール州教育局・
情報文化局

☒アフガニスタンの教育事情

1919年イギリスからの独立をはたしたアフガニスタンは、1929年に国王となったナディール・シャーによって、すべての子どもに初等教育を与えることが憲法(1931年発布)に明記されました。しかし1973年に王制が崩壊するなど、政情が不安定なまま、初等教育は十分に普及せず、1960年~70年代の小学校就学者の平均年間増加率は13%にとどまりました。1975年の成人非識字率は88%であったと推測されています。(2008年現在の成人識字率は28%で、内訳は女性18%・男性51%です。)ソ連の軍事侵攻、それに続く内戦によって、ほとんどの学校が破壊され、または占拠されました。また、タリバン政権下では、女子の就学が原則禁止された上、知識人・教育者の暗殺が相次いだため、多くの知識人も難民として国外へ逃れました。2001年末、タリバン政権が崩壊すると、ユニセフの支援により教育省が実施した「バック・トゥ・スクール」キャンペーンの効果もあり、2002~2005年の間に約400万人、(内

1/3が女子)の子どもが学校へ登録し、教員数も10万人を超えたと報告されています。しかし一方で、学校環境整備や教員研修、教材や学用品の不足など、多くの課題も残っています。公立学校のうち、1/3は校舎がなく、残る2/3も、建物に何かしらのダメージを受けた状態で使用されています。

☒学校建設予定地域の状況

ナンガハール州都のジャララバードから10km西に位置するスタンブル村では、1996年に地域住民によって学校の敷地が提供され、外壁が建てられましたが、校舎本体は費用のめどが立たずにいました。現在子どもたちは、敷地内(屋外)や、隣接するモスクで勉強しています。敷地内には、ユニセフが作ったトイレが6つ、ペシャワール会(日本のNGO)が作った井戸があります。生徒数は200名、周辺2カ村からも子どもたちが通っています。また、学校に通っていない児童(6~14歳)も150人います。



私の大好きな国アフガニスタン

文・写真 安井浩美
あかね書房 2005年7月発行 1,260円

遊牧民の記録をライフワークとする著者が、難民キャンプにちいさな学校を作った経緯からはじまるこの本は、その学校で出会ったサブジナという少女の暮らしを通して、アフガニスタンの人々や風景を私たちに伝えてくれます。厳しい現実の中でも、小さな楽しみを見つけて生きる人々の姿に希望を感じる本です。フォトグラファーでもある著者の写真から、等身大のアフガニスタンが見えてきます。

ラマダン(断食月)

ラマダンはヒジュラ暦(イスラム暦)の第9月の名前です。ヒジュラ暦は太陽暦で1ヶ月を29日と30日で繰返すため、1年は354日になります。ラマダン中は日の出から日没までの間は何も口にしません。晩ご飯をみんなで集まって食べ、真夜中にもう1度食事をして、翌朝からはまた断食をします。日中食べない分夜の食事はいつもより豪華、食料品なども他の月よりたくさん消費するそうです。



こんなところでデザートを見つけた

ラマダンでは栄養補給に欠かせないデザート(なつめやし)。その生命力の強さから「生命の木」と呼ばれミネラルや食物繊維たっぷりのデザートが、こんな身近なところに! お好みソースでおなじみの「オタフク」はソースのうまみとコクをだすために、なんと1975年からデザートを使用していて、今では酢も作っています。最も古いお酢の原料もデザートであると云われています。(デザート酢は通販限定)

☒ アフガニスタンの概要

中央アジアの国アフガニスタンは、ユーラシア大陸の東西交通路とインドを結ぶ「文明の十字路」と呼ばれた平和な地域でした。ペルシア・インド・トルコなど、影響力のある文明に囲まれ、様々な民族の暮らすアフガニスタンは、昔から農業が盛んで、小麦・米・サフラン・ザクロ・ぶどう・ピスタチオやアーモンドなどを生産してきました。他にも毛織物や、紀元前より採掘されている鉛石ラピスラズリも有名です。

国土は山地が多く、平野は北部や南西部に広がっています。一番高い山はノシャック山(7,485m)です。大陸性気候のため乾燥した土地が多く、夏は暑く冬は寒い特徴があります。また、地震も多いようです。

古くはヘレニズム文化(カンダハールなどに残る)から、そして仏教とギリシャ文化の影響が、イスラム教が伝わるまで反映しました。

☒ アフガニスタンの歴史

長い間他民族の支配を受けたあと、1747年にドゥラーニー王朝が成立しました。しかし1880年第2次アフガン戦争に敗れ、イギリスの保護国となります。これによりアフガニスタンは、不凍港を求め南下するロシアと、インドを支配するイギリスとの緩衝地の役割を担うことになりました。

第3次アフガン戦争に勝利した1919年にイギリスから独立。その後半世紀ほど平和が続きますが1973年に王制が崩壊し、共和国となります。そして1978年に軍事クーデターが発生(4月革命)、人民民主党政権が成立しました。

翌1979年、ソ連による軍事介入が始まります。

ソ連の侵攻に対抗する人々はイスラムの旗の下に結束、ゲリラ戦を展開していきます。ソ連と親ソ派に対抗するムジャヒディーンをアメリカが支援する「米ソ代理戦争状態」は、10年後の1989年ようやく「ジュネーブ合意」に基づき、ソ連軍の完全撤退となりました。

しかし国内は、各ゲリラ勢力の主導権争いが続き内線状態に陥ります。そんな中で、1994年頃からイスラム回帰を訴える「タリバン」が台頭していきます。

タリバンは厳しいイスラムの戒律により社会秩序を安定させ、支持を広げていきます。1996年9月、首都カブールを制圧。そしてこの年アメリカの要請を受けてスーダン政府が国外追放とした「ウサマ・ビン・ラディン」はアフガニスタンに入り、タリバンはビン・ラディン率いる国際テロ組織「アル・カイダ」の国内での活動を許すようになりました。

また、女性の就学を禁じたり、映画や音楽などの娯楽も禁止するなど、人々の暮らしを抑圧していきました。

1999年タリバンが国土の9割を掌握、「アフガニスタン・イスラム首長国」成立を宣言しますが、承認国は3カ国にとどまります。(旧ムジャヒディーン勢力は反タリバンで一致し北部同盟に)

国連はこの年、タリバンに対する経済制裁を定めた安保理決議を採択。翌2000年追加制裁も加わると、国内経済はさらに苦しくなっていきます。

2001年、タリバンはバーミヤンの石仏遺跡を爆破。北部同盟の総司令官はアル・カイダにより暗殺されます。そして9月11日アメリカに同時多発テロが発生します。

アメリカと有志連合諸国はアル・カイダが首謀者であるとして、それを保護するアフガニスタンに軍を送ります。と同時に北部同盟も攻撃を開始、11月にはタリバン政権が崩壊しました。

12月、ボン合意によって暫定政権発足。国連安保理決議に基づき、国際治安対策部隊(ISAF)創設。また、国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA)がスタートしました。

2004年、新憲法が制定され、選挙によってハミード・カルザイが大統領に当選、正式政権アフガニスタン・イスラム国が発足しました。しかし、選挙を機にタリバンが南部で再結成し、2006年にはさらに攻勢が強まるなど、20年以上に渡る混乱に終止符は打たれていません。



かつての美しい村を行く少女
長い戦いの中生きる人々も
逃れて難民となった人々も
どうか、いちにちも早く
ふるさとでの日常を取り戻すことが
できますように



photo 川畑嘉文(SVA提供)

